

6 スポーツボランティア

6-1 | スポーツボランティアの実施率

スポーツボランティアとは、報酬を目的としないで、自分の労力・技術・時間などを提供して地域社会や個人・団体のスポーツ推進のために行う活動を意味している。

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者は全体の7.7%で、2010年調査の8.4%を0.7ポイント下回り、2008年調査の6.7%を1.0ポイント上回る結果となっている(図6-1)。1994年調査から経年でみると、2010年調査時に過去最高の実施率となったが、ほぼ横ばいの状況にある。

今回の調査結果をもとにわが国の成人人口1億397万3,831人(2011年3月31日現在*の住民基本台帳による)からスポーツボランティア人口を推計すると、過去1年間に約800万人の成人が何らかのスポーツボランティアを行っている。

スポーツボランティアの実施率について性別、年代別、運動・スポーツ実施レベル別にみた(図6-2)。性別にみると、過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者の割合は、男性10.3%、女性5.1%と男性の実施率が女性と比較して約2倍となる。

年代別に実施率をみると、40歳代で11.9%と最も高く、2010年調査と同様であった。次いで60歳代8.4%、

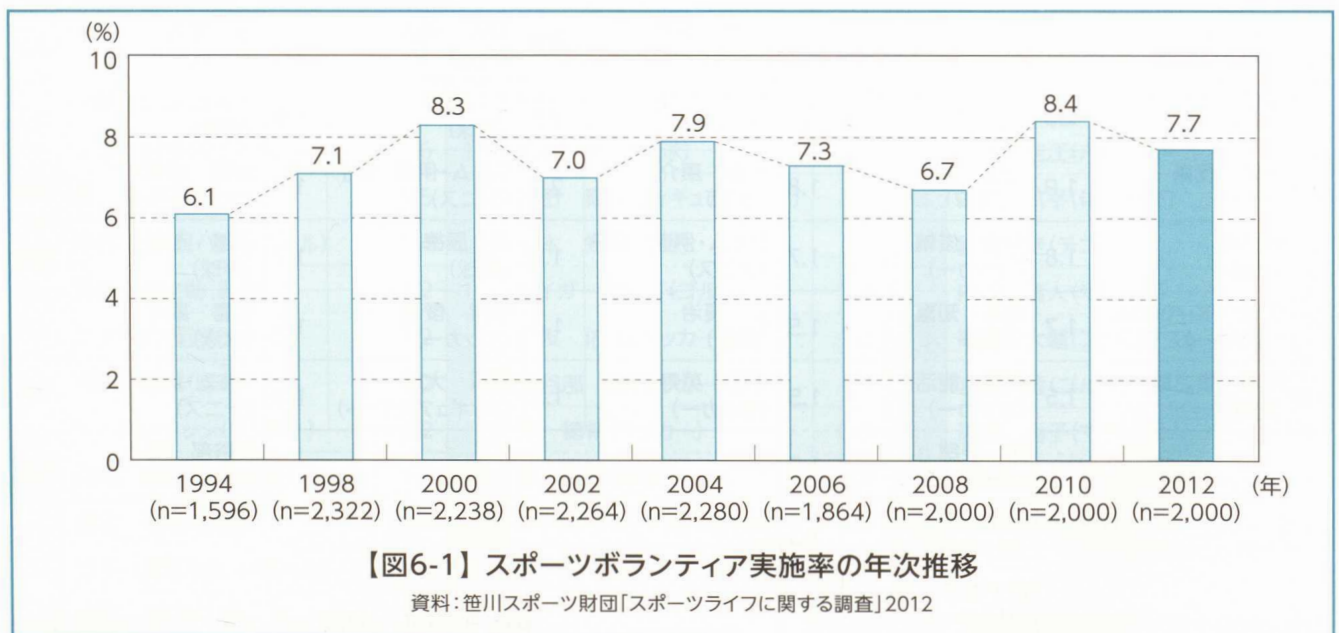
50歳代6.9%、70歳以上6.6%となっており、2010年調査では10.1%で2番目に高かった30代が、今回調査では6.4%と3.7ポイントも減少していた。

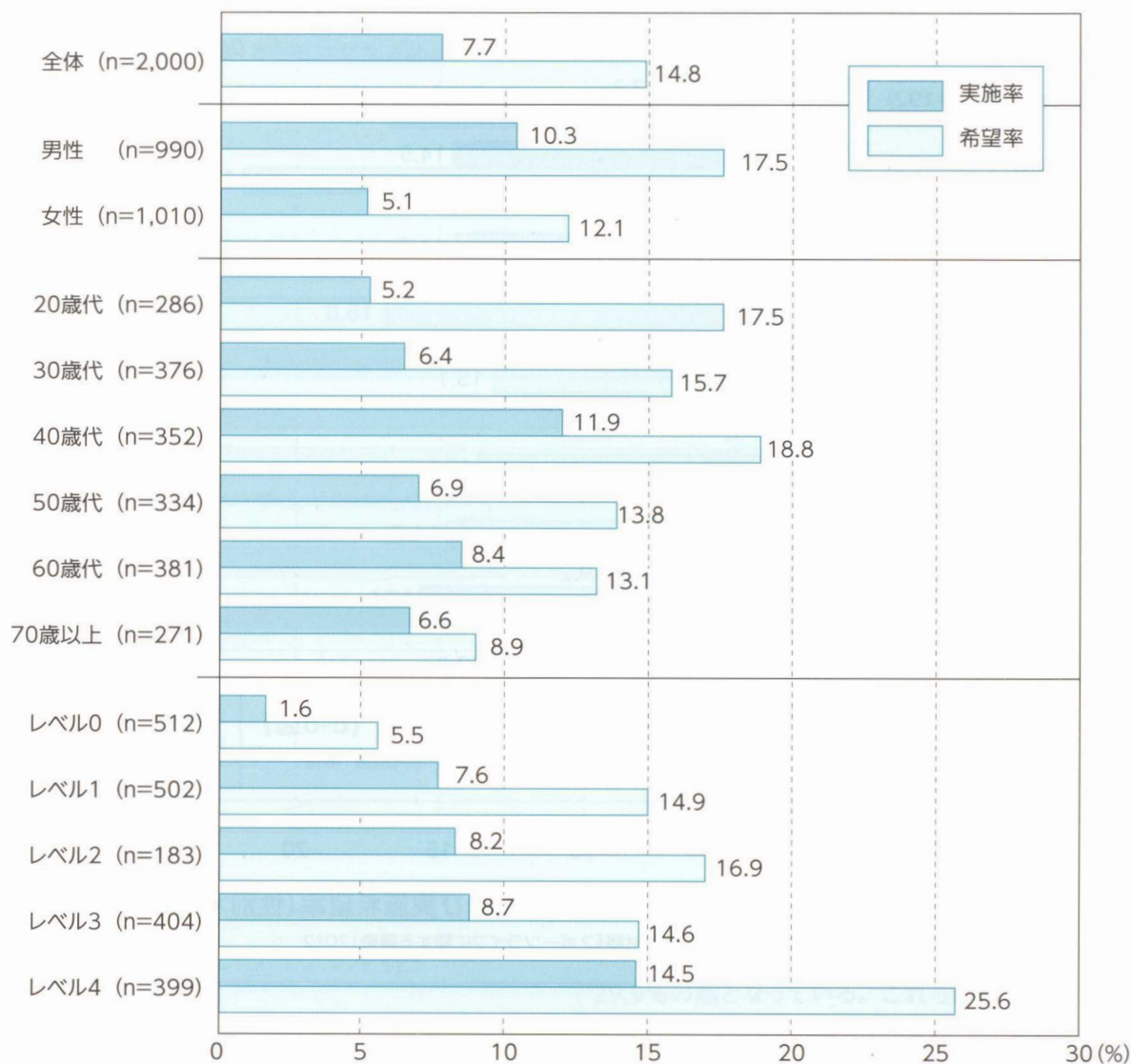
運動・スポーツ実施レベル別では、行ったことが「ある」と回答した者の割合は、「レベル4」で14.5%と最も高く、「レベル0」が1.6%と最も低くなっている。

次いで、クラブ加入の状況別、直接スポーツ観戦の有無別にみた(図6-3)。クラブ加入の状況別にみると、「ある」と回答した者の割合は、「クラブ非加入者」では3.5%と最も低く、「クラブ加入経験者」4.5%、「クラブ加入者」23.6%とクラブ加入者の約1/4が実施しており、加入者の実施率が高くなっている。また過去1年間のスポーツの試合等の直接観戦の有無別にみると、「ある」と回答した者の割合は、「非観戦者」では3.9%であるのに対し、「観戦者」では15.9%となっている。

次に性・年代別に実施率をみると、男性、女性ともに40歳代(男性14.5%、女性9.2%)で最も高く、次いで男性では60歳代13.0%、20歳代9.6%、70歳以上9.0%、女性では50歳代6.0%、30歳代5.4%、70歳以上4.7%となっている(図6-4)。

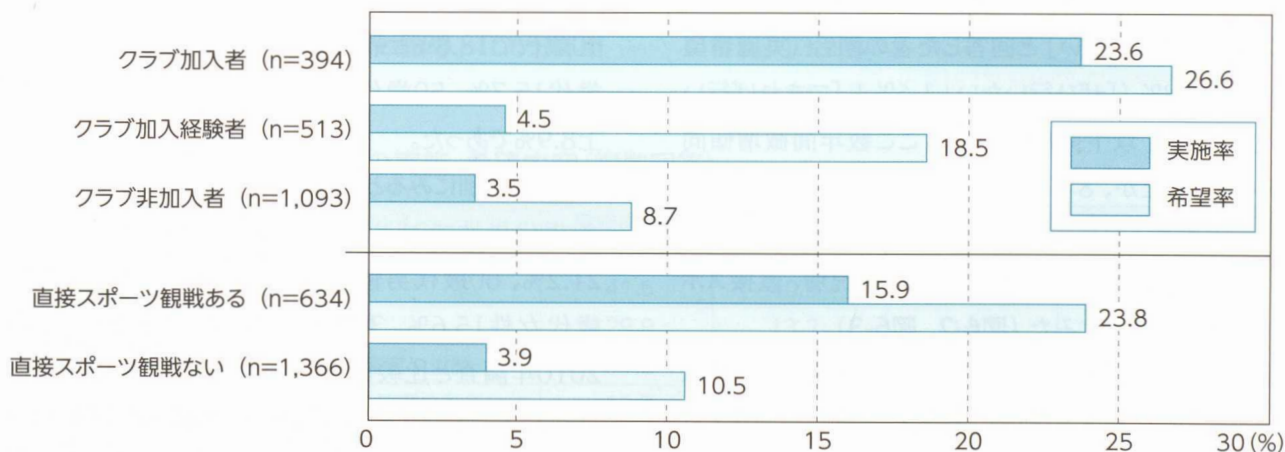
(※ただし、2011年東日本大震災により人口を報告できなかった22市町村については、2010年3月31日現在の住民基本台帳人口から推計)





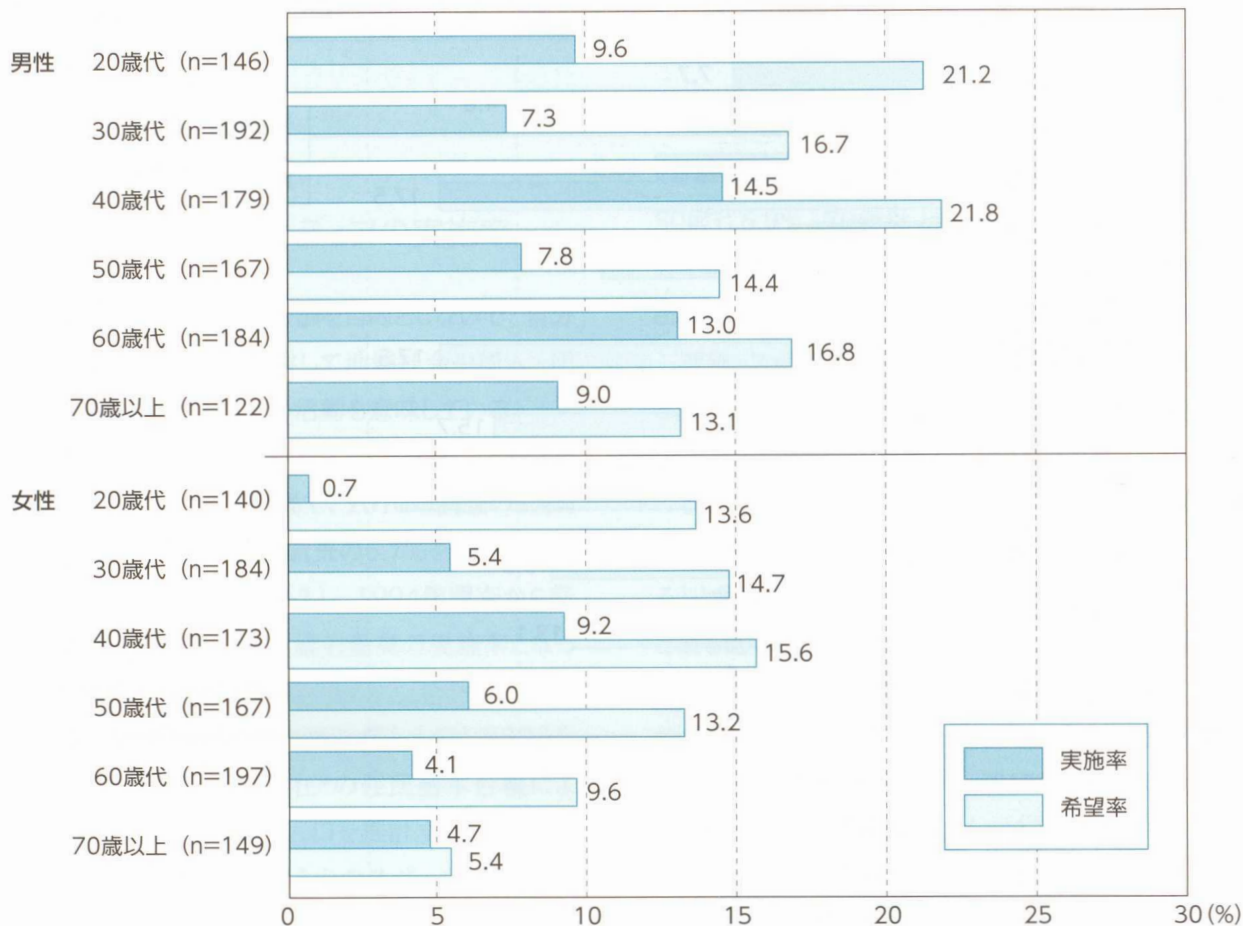
【図6-2】スポーツボランティアの実施率および実施希望率(全体・性別・年代別・レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012



【図6-3】スポーツボランティアの実施率および実施希望率
(クラブ加入の状況別・直接スポーツ観戦の有無別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012



【図6-4】スポーツボランティアの実施率および実施希望率(性別×年代別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

6-2 | スポーツボランティアの実施希望率

今後のスポーツボランティアの実施希望についてたずねたところ、「行いたい」と回答した者の割合(実施希望率)は、14.8%([ぜひ行いたい]1.6%+[できれば行いたい]13.2%、以下同様)であり、ここ数年間微増傾向がみられていたが、8年ぶりに減少した(図6-5)。

実施希望率と実施率について、性別、年代別、運動・スポーツ実施レベル別、クラブ加入の状況別、直接スポーツ観戦の有無別にみた(図6-2、図6-3)。

全体では、実施率7.7%に対して、実施希望率は14.8%と、潜在需要の割合(実施希望率-実施率)は7.1ポイントとなっており、2010年調査の潜在需要の割合7.5ポイント(実施希望率15.9%-実施率8.4%)と比較して微減となった。

性別にみると、「行いたい」と回答した者の割合は、男

性で17.5%、女性で12.1%であった。実施率と比較すると、男性では7.2ポイント、女性では7.0ポイント実施希望率が上回っている。

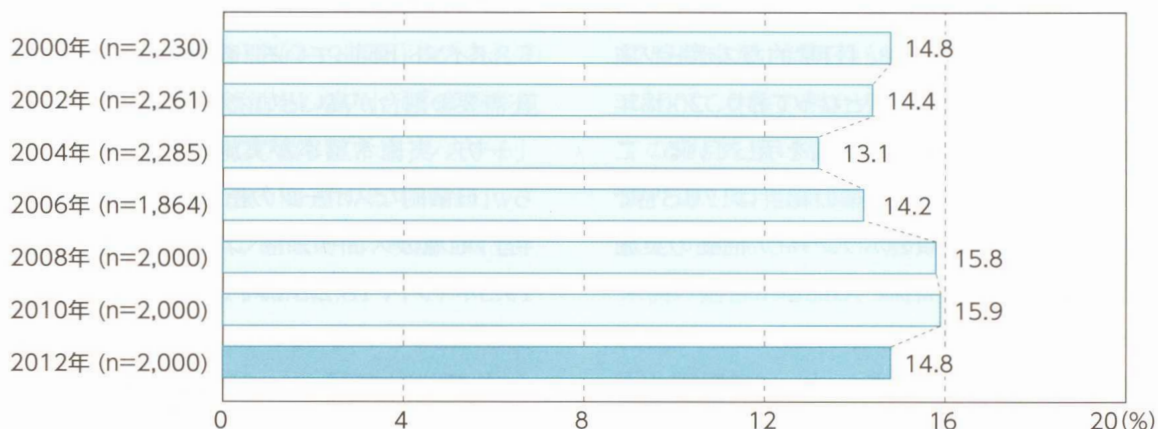
年代別にみると「行いたい」と回答した者の割合は、40歳代で18.8%と最も高く、次いで20歳代17.5%、30歳代15.7%、50歳代13.8%、60歳代13.1%、70歳以上8.9%であった。

性・年代別にみると「行いたい」と回答した者の割合は、40歳代男性で21.8%と最も高く、次いで20歳代男性21.2%、60歳代男性16.8%、30歳代男性16.7%、40歳代女性15.6%、30歳代女性14.7%となっている。2010年調査と比較して、男性の30歳代の実施希望率(前回23.7%)が7ポイントも減少した結果が特筆される。

運動・スポーツ実施レベル別にみると「行いたい」と回答した者の割合は、「レベル4」で25.6%と最も高く、次いで「レベル2」16.9%となっており、「レベル0」で5.5%と最も低かった。

クラブ加入の状況別にみると、「行いたい」と回答した者の割合は、「クラブ加入者」では26.6%と最も高く、次いで「クラブ加入経験者」では18.5%、「クラブ非加入者」では8.7%となっており、クラブ加入者の約1/4が実施希望を有している。

スポーツの試合等の直接観戦の有無別にみると、「行いたい」と回答した者の割合は、「観戦者」では23.8%であるのに対し、「非観戦者」では10.5%となっている。



【図6-5】スポーツボランティア希望率の年次推移

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

6-3 | スポーツボランティアの内容

スポーツボランティアの実施内容について、『日常的な活動』『地域のスポーツイベント』『全国・国際的スポーツイベント』に大別し、具体的な活動の内容、年間の実施回数についてたずねた(表6-1)。

具体的な活動内容は、『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」が46.1%と最も多く、次いで『日常的な活動』の「スポーツの指導」41.6%、「団

体・クラブの運営や世話」39.6%、「スポーツの審判」29.9%の順となっている。これらの各カテゴリーに対する回答率の総計は204.5%であり、1人あたり平均2種類のボランティア活動を実施していると計算され、2010年調査の173.8%、平均1.7種類を上回った。

年間の活動回数は、『日常的な活動』の「スポーツの指導」が年間平均40.3回と最も多く、以下『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」23.2回、「スポーツの審判」13.2回であった。

【表6-1】スポーツボランティアの実施・希望内容(複数回答)

スポーツボランティアの内容		実施率 (%) n=154	実施回数(回/年) n=154	実施希望率 (%) n=290	実施希望率-実施率 (ポイント)
日常的な活動	スポーツの指導	41.6	40.3	22.1	-19.5
	スポーツの審判	29.9	13.2	11.7	-18.2
	団体・クラブの運営や世話	39.6	23.2	30.7	-8.9
	スポーツ施設の管理の手伝い	12.3	11.4	19.0	6.7
地域のスポーツイベント	スポーツの審判	21.4	6.8	7.2	-14.2
	大会・イベントの運営や世話	46.1	2.9	57.9	11.8
全国・国際的スポーツイベント	スポーツの審判	3.9	3.2	1.7	-2.2
	大会・イベントの運営や世話	9.7	1.9	15.5	5.8

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

6-4 | スポーツボランティア実施希望内容

今後、スポーツボランティアを「行いたい」「ぜひ行いたい」+「できれば行いたい」と回答した者が希望する活動内容を示した(表6-2)。

希望する活動内容について「地域のスポーツイベントの運営や世話」と回答した者の割合が57.9%と最も高く、次いで「日常的な団体・クラブの運営や世話」30.7%、「日常的なスポーツの指導」22.1%、「日常的なスポーツ施設の管理の手伝い」19.0%の順となっており、2008年調査、2010年調査とほぼ同様の傾向を示している。これらの各カテゴリに対する回答率の総計は170.3%であり、1人あたり平均1.7種類のボランティア活動の実施を希望している。

性別にみると、男女ともに「地域のスポーツイベントの運営や世話」を希望する割合が高く、次いで男性では「日常的なスポーツの指導」「日常的な団体・クラブの運営や世話」、女性では「日常的な団体・クラブの運営や世

話」「全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話」を希望している。男性はスポーツの指導を、女性は規模を問わずイベントの運営や世話を希望する割合が高い。

実施内容と実施希望内容の割合を比較すると、実施希望率が実施率を上回っている主な活動内容は「地域のスポーツイベントの運営や世話」「日常的なスポーツ施設の管理の手伝い」「全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話」で、それぞれ11.8ポイント、6.7ポイント、5.8ポイント上回っている(表6-1)。これらの活動は、潜在需要の割合が高いといえる。

一方、実施希望率が実施率を下回っている活動のうち、「日常的なスポーツの指導」「日常的なスポーツの審判」「地域のスポーツイベントでの審判」では、それぞれ19.5ポイント、18.2ポイント、14.2ポイントと10ポイント以上も実施率を下回っている。これらの活動は専門性が高く、依頼されて行うケースが多いため希望率が低いと考えられる。

【表6-2】スポーツボランティアの希望内容(全体・性別:複数回答)

(%)

スポーツボランティアの内容	全 体 (n=290)		男 性 (n=171)		女 性 (n=119)	
地域のスポーツイベントの運営や世話	1位	57.9	1位	57.3	1位	58.8
日常的な団体・クラブの運営や世話	2位	30.7	3位	31.6	2位	29.4
日常的なスポーツの指導	3位	22.1	2位	32.2		7.6
日常的なスポーツ施設の管理の手伝い	4位	19.0	4位	19.3	4位	18.5
全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話		15.5		11.7	3位	21.0
日常的なスポーツの審判		11.7		17.0		4.2
地域のスポーツイベントでの審判		7.2		8.8		5.0
スポーツ情報誌やホームページ作成の手伝い		4.5		2.9		6.7
全国・国際的なスポーツイベントでの審判		1.7		1.2		2.5

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

COMMENTS

資料: 笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2012

- からだや心の健康のためにスポーツはとて素晴らしいと思います。日々の仕事に追われ、なかなか時間が作れていませんが、地域でスポーツのイベントがもっと行われれば参加したいと思います。(36歳 女性 専業主婦)
- 町内会でも色々なスポーツの行事があるが、なかなかうまく利用できていない。自分が積極的に参加しなければからだを動かす機会もないので、今後はできるだけ友達や家族と一緒に参加するようにしたい。(60歳 女性 家族従業者)